

3) 止水環境対策（調整池やモリアオガエル代替産卵池など）

改変前、当該地域の自然環境要素の中では、水田を中心とした止水環境の存在が大きな特徴のひとつであった。改変後は下流側に広大な調整池が出現したほか、環境プラザ内にはモリアオガエル用の産卵池が設置された。

【調整池】

調整池では、2014年12月の観察時、調整池の上流側岸辺でタコノアシ（ユキノシタ科：国、県のレッドデータブックで準絶滅危惧種）を100株程確認した。その後、継続して生育が確認されている。ただし、当該地は水位の変動が激しいためか、個体数は減少傾向にあり、2020年9月に1株を確認した。このほか、イノシシやシカの生息痕（足跡や食痕）が多く、自動カメラでも生息が確認された。調整池の後背湿地域は人の立ち入りがほとんどなく、自然性の高い環境が形成されつつある。

【モリアオガエル代替産卵池】

モリアオガエルの代替産卵池では2020年においても、過年度調査の結果と同様、いずれの止水環境でもモリアオガエルの鳴声や産卵が確認された。これらの水環境が本種の安定した産卵場になっていることが示された。なお、当該産卵池では2017年、2018年と本種の卵塊が盗難にあったため、市環境課ではロープと盗難防止用看板を設置した。2019年、2020年は、盗難は見られなかった。

| | |
|---|--|
|  |  |
| <p>調整池 (2020.4.08)</p> | <p>調整池 1年草のボントクタデが優占 (2020.9.13)</p> |
|  |  |
| <p>調整池上流側 (2020.9.13)</p> | <p>調整池 タコノアシ (2020.9.13)</p> |
|  |  |
| <p>モリアオガエル用の産卵池 (2020.4.08)</p> | <p>代替産卵池 モリアオガエル卵塊 (2020.6.07)</p> |

写真Ⅳ.3.12





4) 哺乳類の移動路対策(グリーンベルト部)

温浴施設と陸上競技場との間にマウンド状のグリーンベルトがある。これは、防風および東西の緑域をつなぎ動物の移動路を確保する目的で造成されたものである。

2013年に調査したところ、イノシシ、シカなど偶蹄類の利用が確認できた。また西側の山地樹林付近では、けもの道やリスの食痕（アカマツの球果）などが確認された。

2016年9月の調査では、前年同様、移動路部はイノシシによる掘り返しやシカの足跡、食痕が見られた。

自動撮影カメラを2台設置したところ、2016年9月28日と29日にイノシシの画像が得られた。また、2017年には5月にノウサギ、6月にハクビシン（糞も確認）、9月にキツネ、2018年4月にカモシカ、5月にアナグマ、2019年は6月にカモシカ、8月にタヌキ、2020年は6月タヌキ、カモシカ、9月にキツネを確認した（写真IV.3.13～15）。現在のところ中・大型哺乳類によく利用されていることが確認されている。

| | |
|---|--|
|  |  |
| <p>動物移動路(グリーンベルト)。 カルバートボックス。(2019.6.13)</p> | <p>同左(2020.6.08)</p> |
|  |  |
| <p>カモシカ (2019.6.13)</p> | <p>タヌキ (2019.8.29)</p> |

| | |
|--------------------------|-------------------------|
| | |
| <p>イノシシ (2016.9.28)</p> | <p>ノウサギ (2017.5.27)</p> |
| | |
| <p>ハクビシン (2017.6.28)</p> | <p>キツネ (2017.9.16)</p> |
| | |
| <p>カモシカ (2018.4.21)</p> | <p>アナグマ(2018.5.17)</p> |

写真IV.3.14



タヌキ (2020.6.07)



カモシカ (2020.6.08)



ノウサギ (2020.9.14)



キツネ (2020.9.13)



アナグマ(島田市環境課後藤氏撮影)
ソーラー発電部のフェンスは中型獣～大型獣の
移動障壁になっている(2020.5.01)



同左(2020.5.01)

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

5) 側溝対策

側溝にはカエル類や昆虫類などの小動物が落下し、這い出せずに斃死するが多い。通常の側溝は小動物の移動路の分断など生態系に及ぼす影響が大きい。

2011年5月13日に新規に設置された側溝(幅60cm、深さ40cm)内で、次のような動物が這い出せずに死んでいた。

- ・タゴガエル、オサムシ類、ヒシバツタ科 sp.、ヤスデ綱 sp.、ミミズ類など

2012年には側溝の一部(端末)に這い出し構造が設置された。

2018年5月17日にメガソーラー敷地内の側溝(幅30cm、深さ30cm)内の落下動物を確認したところ、ダンゴムシ類をはじめ、カメムシ類などの昆虫のほか、カナヘビやサワガニなどを確認した。

今後、新たに側溝を作る場合は、集水桝、側溝には小動物が這い出せる構造が望まれ、また、既存の集水桝、側溝においても、改善案(蓋や這い出し構造の追加など)を検討することが望まれる。

| | |
|---|--|
|  |  |
| <p>落下動物: サワガニ、ダンゴムシ類 (2018.5.17)</p> | <p>落下動物: 左上 ツチカメムシ(左)、ダンゴムシ類 sp.(右)(2018.5.17) 右下 ミミズ類、(2019.3.29)</p> |

写真Ⅳ.3.16



多目的広場側溝、対策済 (2019.3.29)



同左(2020.9.15)



多目的広場側溝、端末対策済
(2020.4.08)



端末を這い出し可能構造とした側溝 動物移動路部
(2012.4.26)



多目的広場の側溝
幅 40cm、深さ 30cm、未対策部 (2020.9.15)



メガソーラー内の集水枡
70cm 四方、深さ 60cm (2018.5.17)

写真Ⅳ.3.17